

Enhancing Value for Stakeholders

# 社会とともに

日産は「人々の生活を豊かに」というビジョンのもと、魅力ある製品やサービスを世界中に提供すると同時に、持続可能な社会の実現に向け、企業市民としての役割を果たしていきたいと願っています。日産はグローバル社会の一員として、より良い社会の創造に寄与するさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

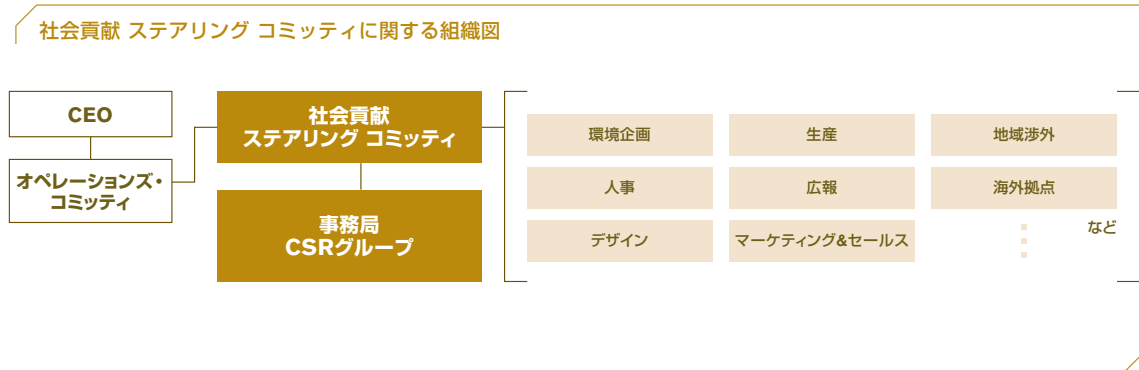
**WEB** .....  
 社会貢献の取り組みに関する詳しい情報は、下記のウェブサイトに記載しています。  
<http://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/>

## グローバル企業としての取り組み

### 日産らしい社会貢献活動

日産は社会の持続可能性に寄与するため、「教育への支援」「環境への配慮」「人道支援」の3つの重点分野を中心に社会貢献活動に取り組んでいます。活動にあたっては、社会貢献活動に携わる部署および役員による会社横断的な組織「社会貢献 ステアリング コミッティ」において議論を重ね、世界各地の日産の事業所とグローバルでビジョンを共有しながら、それぞれの国や地域の実情、ニーズに合った活動を展開しています。

各事業所では、近隣地域に対して、雇用の創出など経済的な貢献はもとより、さまざまな活動を通して地域コミュニティとの強固な関係づくりに努めています。国や地域を越えて取り組むべき課題には、グローバルな考え方と各地域に最適な活動とのバランスをとりながら、日産らしい貢献ができるよう心がけています。



### 重要な考え方

日産は社会貢献活動において、以下のような考え方が重要と考えています。

- 1. 社員の自発的な参加意識を育てる**  
 社員一人ひとりの社会貢献活動を積極的に支援し、より多くの社員が企業市民意識を持つことにより、大きな社会貢献の輪を育てていきます。
- 2. 会社の強みや特性を生かした活動を考える**  
 金銭的な支援だけでなく、ノウハウや日産関連施設の活用など、日産が本業で培った資源を十分に生かすことによって、持続的な活動を行うことを目指しています。
- 3. 専門性のあるNPOやNGOとの協働**  
 日産の社会貢献活動をより実りあるものとするために、NPO（民間非営利組織）やNGO（非政府組織）と連携した協働プログラムの可能性を探求していきます。

## グローバルな活動事例

### 良書を次世代に伝える

幼い時期から良書に触れることは、子どもたちの創造力や感性を養ううえでとても重要です。日産では、財団法人大阪国際児童文学館とともに「ニッサン童話と絵本のグランプリ」を開催しています。本グランプリは、アマチュア作家による創作童話と絵本のコンテストで、子どもたちに良質な童話や絵本を届けることを目的として1984年にスタートしました。以来、全国から応募作品が寄せられ、これまでに数多くの優秀作品を輩



出しています。第26回となる2009年度は、2,666編の応募が寄せられました。日産では大賞作品を毎年出版すると同時に、販売会社を通じて全国の公立図書館（約3,400館）や幼稚園（約680園）に寄贈しており、累計寄贈冊数は約16万8,000冊に上ります。

また北米日産会社（NNA）では、就学前の子どもたちに書籍を贈る、ガバナーズ・ブックス・フロム・バース基金（GBBF）の活動を支援しています。GBBFは幼児教育の振興を目的に、北米日産が本社を構えるテネシー州にて2004年に創設されました。NNAでは2008年度に14万ドル、2009年度は10万ドルの資金協力を行いました。

### 社員による復興支援活動

NNAは、NGOのハビタット・フォー・ヒューマニティとのパートナーシップを通じて、災害や貧困などの理由により家を持たない人びとに住まいを安価で提供する支援活動を、2006年から継続しています。2009年度は100万ドルの資金提供を行い、米国およびカナダに12軒の住居を建設しました。さらに、建築資材を運搬するためにピックアップトラック「タイタン」7台を寄付。建設作業には、これまでに役員を含む約2,500名もの日産社員がボランティアとして参加し、住人となる人びととともに汗を流し、完成の喜びを分かち合いました。



また韓国日産株式会社や豪州日産自動車株式会社でも、ハビタット・フォー・ヒューマニティの現地法人と連携しながら、ボランティア活動や車両寄贈活動を行いました。

### 交通安全への理解を深める

中東日産会社は2009年10月、子どもたちが交通安全について楽しく学べるウェブサイトを立ち上げました。韓国日産株式会社でも2009年4月に「日産キッズ・セーフティ・キャンペーン」を開始。

日産（中国）投資有限公司では、安全意識と運転技術の向上を目的とした「ニッサン・セーフティ・ドライビング・フォーラム」を2005年から毎年開催しています。（関連ページ：50ページ）

## 日本での社会貢献活動

### 3つの出張授業

小学校高学年の児童を対象とした3つの出張授業「日産モノづくりキャラバン」「日産デザインわくわくスタジオ」「日産わくわくエコスクール」を2009年度も開講しました。

「日産モノづくりキャラバン」は、日産の製造業としてのノウハウを生かして子どもたちに「モノづくりの楽しさ」を体験する機会を提供するためのプログラムです。2008年度からは、従来の神奈川県に加えて栃木、福岡の3県の小学校で開催してきました。2009年度には、204校の13,456名の児童が参加しました。

「日産デザインわくわくスタジオ」は、文部科学省が推進するキャリア教育プログラムの趣旨に沿って、日産が独自に企画した職業体験授業です。2008年から神奈川県内の小学校でスタートしました。日産の現役カーデザイナーが、クルマの製造過程やデザインの仕事について紹介しています。

「日産わくわくエコスクール」は、NPO法人気象キャスターネットワークとの協働で行っている環境出張授業で、未来を担う子どもたちの環境意識を高めることを目的としています。（関連ページ：21ページ）



### 「軽井沢八月祭」で環境技術を紹介

日産は、2009年8月に開催されたクラシック音楽を中心とした文化・芸術の祭典「軽井沢八月祭2009」に協賛し、燃料電池自動車「エクストレイルFCV」2台を提供したほか、電気自動車の実験車両の展示、演奏家の送迎を行いました。イベントを主催する軽井沢八月祭実行委員会は「環境に配慮したイベント運営」を目指しており、「人とクルマと自然の共生」という環境理念を掲げる日産と考え方が一致することから3年連続の協賛となりました。

また、同イベントに関連して、軽井沢絵本の森美術館で「ニッサン童話と絵本のグランプリ作品展」を開催。サクソフォン四重奏と童話読み聞かせコラボレーションイベントなども行いました。

### ボランティア活動の資金を支援

日産は社員が市民として取り組む自主的な活動を支援しています。1996年に導入した「日産ボランティア活動資金支援制度」もそのひとつ。この制度は、社員が寄付を行うときに会社からも同額の寄付（マッチング・ギフト）を提供するほか、ボランティア活動や物品購入の資金が不足した際に、それらを支援するものです。趣味の活動を生かした福祉施設の訪問、環境保全活動、芸術・文化活動など、さまざまな取り組みが支援対象となり、2009年度は15件、約200万円が提供されました。

### 「日産カップ追浜チャンピオンシップ」の開催

日産追浜工場では、2009年12月4～6日、地域関係団体とともに全国車いすマラソン「日産カップ追浜チャンピオンシップ2009」を開催しました。北京パラリンピックの出場者を含む延べ約200名の選手が参加し、日ごろの練習の成果を競いました。この大会は障がい者スポーツの普及と競技者の技術向上のほか、地域の活性化を目的として2000年から始まった車いす陸上競技の総合大会で、今回で10回目を迎えました。ロードレースでは、毎年約500名の日産社員および地域のボランティアがコース整理や給水の補助を行うなど、大会の運営に協力しています。



また、この大会を記念して設立された社員による「太陽募金」では、毎年集まった寄付金を障がい者スポーツ振興のため、障がい者陸上競技団体等に贈呈しています。

### 科学技術の発展を支援

日産科学振興財団は、日本の学術、文化の向上を目的として1974年に設立され、自然科学分野の有意義な研究に対して幅広く助成を行っています。財団では「社会の進歩のためのソリューションの創成」をテーマに、「環境研究」「認知科学研究」「科学・技術研究」の3分野に重点を置いた助成事業を続けており、これまでの助成実績は累計約2,400件、66億円（2010年3月現在）に上ります。また、1993年からは気鋭の研究者を褒賞する「日産科学賞」を実施。地球環境にかかわる基礎研究で卓越した研究業績を上げ、今後さらなる発展が期待される研究者を毎年表彰しています。

教育助成にも力を注いでいます。「理科／環境教育助成」は、将来を担う子どもたちの科学や技術、環境問題などに対する興味と関心を高め、理解を促進するための教育助成プログラムです。2009年度には神奈川、栃木、福岡の各県合わせて91校を対象に助成を行いました。

### 社会貢献活動への社員参加を促進

日産は社員による社会参加の意識を醸成し、積極的に社会貢献活動に参加できる環境づくりに努めています。2009年度は社内イントラネット上に社会貢献に関するページを新設し、ボランティア募集の告知や物品収集の呼びかけなど、より具体的な情報提供を行いました。

社会貢献に対する意識づけの一環として、2009年12月には「NPOとの集い」と題するセミナーを実施。フェアトレード製品の販売や団体の活動紹介を通じて、社員が社会的な課題に関心を持ち、市民活動に参加するきっかけとなることを目指しました。セミナーにはNPOのシャンティ国際ボランティア会やシャプラニール＝市民による海外協力の会の方々ほか、日産社員など約270名が参加。出席者からは、今後も社会貢献活動に触れる機会を希望する声が多数聞かれました。

## 海外での社会貢献活動

### クルマを使った移動眼科診療（南アフリカ）

南アフリカの農村地域では医療施設や交通手段が整っておらず、必要な診察やサービスを受けられない子どもたちが大勢います。こうした地域の小学生が眼科検診を受けられるよう、南アフリカ日産自動車会社（NSA）では、移動眼科診療車「モバイルアイクリニック」を提供しました。日産の商用車「インタースター」を改造し、視力検査用の装置を完備した「モバイルアイクリニック」は、車内での検診に加え、メガネが必要な子どもたちに年間約4,000個のメガネを処方することができます。地元で地域保健活動を展開するNPOのInternational Centre for Eyecare Educationとのパートナーシップにより、第1号のインタースターはすでに2007年からクワズール・ナタール州で活動を開始。NSAではこのプロジェクトを継続的に実施し、5年間で総額480万ランド（約5,800万円）に上る支援を予定しています。病気の予防・治療はもちろんのこと、学習能力向上の側面からも、「モバイルアイクリニック」は農村地域の子どものためにとって、なくてはならないプロジェクトとなっています。

### シルクロードをたどる募金活動（中国）

日産（中国）投資有限公司が2005年から協賛している「日産十年徒歩シルクロード国際市民大会」は、シルクロード約7,000kmを10年かけて歩きながら募金活動を行うというイベントです。参加者にとっては、歴史的なシルクロードをたどりながら中国の歴史や美術の素晴らしさに触れられるだけでなく、中国の教育や環境問題についてあらためて考える良い機会となっています。このイベントでは、中国の貧困地域にある小学校のための募金活動も行われています。

### チャリティレースで復興支援

欧州日産自動車会社では、NGOパートナーのCARE フランスによる中南米ニカラグア共和国への経済支援プログラムに協力しました。2009年度はニカラグア北部のココ川流域に住む農家1,120世帯への経済支援を目的に、フランス・パリ市内とヴェルサイユ間を走るマラソン大会に日産社員40人がチャリティ参加。これに合わせて設立した社内募金では1,210ユーロが集まり、会社からのマッチング・ギフトと合わせて計2,420ユーロを提供しました。ニカラグアは近年、大型ハリケーンに度々見舞われるなど、甚大な災害を被っています。日産は今後も各地の復興支援活動に協力していきます。

## 人道支援

### 大規模災害地域への人道支援

日産自動車は、世界各地で相次ぎ発生した大規模自然災害の被災地に対する支援を行いました。2009年9月にフィリピンを中心に大きな被害をもたらした台風16号「ケツァーナ」の被災地に対する緊急支援として300万円をNGOジャパン・プラットフォームに拠出したほか、現地の日産販売会社ユニバーサルモーターズが復興支援の物資運搬車両の無償貸与を行いました。また、同月にサモア諸島で発生した地震・津波の被災地に対する支援として100万円を国境なき医師団日本に、同じくインドネシア・スマトラ沖大地震の被災地に対して500万円をジャパン・プラットフォームに、それぞれ拠出しました。一方、被害の甚大さを考慮し、日本の事業所で社員募金を行い、その総額約120万円がインドネシアでの復興支援に役立てられました。

2010年1月に発生したハイチ大地震の際には、北米日産会社が日産グループを代表して対応にあたり、約10万ドルの支援を迅速に行いました。さらに2月にチリを襲った大地震の被災者支援として、日産自動車株式会社から300万円をジャパン・プラットフォームに寄付。北米の日産グループからも1万7,000ドルを赤十字社に寄付しました。